

月刊

復興人

仙台圏の中小企業の未来を支援する情報誌[月刊ふっとうじん] <http://www.25jin.com/>

8

VOLUME. 34
2014年7月25日発行

無料

特集

人を呼ぶチカラ



秋保の新たな魅力発信

松島地域に根ざした挑戦

蔵王町の真田なお買物

復興ツーリズム

機能集約型都市・仙台へ

まちくるチケット

『Wind Will』は、特許の二重羽根構造を採用。ダクトから送り込まれる冷暖房風が内羽根に当たって回転し、外羽根は周囲の空気を誘引。冷暖房風と周辺空気の混合気を吹き出すことで室内に循環対流をもたらして、短時間で快適な室内空間を作り出す。また、空調効率の向上・空調負荷の低減により、コンプレッサーの稼働時間を減らすことができる。宮城工業高等専門学校（現：仙台高等専門学校）の実験では、稼働時間が2時間45分減少し、30%以上の省エネ効果を確認した



「産学官連携のメリットのひとつとして挙げられるのは、学術機関の『検証データによる説得力』です。第三者の視点で品質を保証していただいているのと同様ですから、全国が販売対象となるこの商品にとっては、販促力の強化に直結すると感じています」
（新規事業部マネージャー 宮部和晋さん）



W i n d W i l l



『Wind Will』は、エアコンのダクトから供給される冷暖房風を動力とする、電力を使わないサーキュレータ。空調の新築・リニューアル工事やメンテナンスを手掛ける〈空調企業〉が開発した。

「この製品は、エンドユーザーと直接的に接することができる事業を展開したい、そんな思いをきっかけに誕生しました。特許である二重羽根構造を採用しており、室内全体の温度ムラを解消して光熱費のコストダウンを図れるのが特長です」

こう語るのは、取締役技術部統括部長の佐野宏和さん。産学官連携を活用して開発したことも『Wind Will』のポイントのひとつだという。デザイン設計や試作などについては宮城県産業技術総合センター、気流シミュレーションや実機試験については東北大学大学院工学研究科と宮城工業高等専門学校（現：仙台高等専門学校）の支援を受けており、その優れた性能が評価され、平成20年には第12回みやぎものづくり大賞でグランプリを獲得した。実際に導入している企業からは「足下の冷えがなく、夏も冬も快適」という声が寄せられているという。

「お客様の喜ぶ声は何よりのやりがい。今後は、さらなる性能アップや施工性の向上を図り、販路を拡大していきます」

空調企業株式会社 取締役技術部統括部長 佐野宏和さん

「宮城県産業技術総合センターでは、3次元CADによるデザインから、光造型機による試作、検証に至るまでを支援していただきました。開発途中の製品情報が漏れる心配もありませんでしたし、一連の開発工程が1ヵ所で進んでいくので、開発時間の短縮と費用の圧縮を図ることができたのは本当に助かりました。現在も、新しい空調補助機器の開発において引き続きご協力いただいています」

